自給飼料生産技術の改善
～規模拡大に対応できる粗飼料を確保～

釧路東部支所地域係　厚岸町（若松・糸魚沢地域）

◇　活動のねらい

厚岸町若松・糸魚沢地域(14戸）は、経営主の平均年齢が若く規模拡大農家もおり、今後も生乳生産量の増加が期待される。限られた飼料畑面積で多くの飼養頭数を維持するには粗飼料不足が課題となっていた。そこで、規模拡大に対応できる良質粗飼料の安定確保を目指し活動した。この活動も含め、飼養管理技術の向上と合わせて所得の安定確保を目指した。

1　活動の経過（平成28～令和2年度）

(1) 現状を把握（６農場）

①ほ場の状況を把握

植生・収量調査結果と土壌分析結果等と合わせて、ほ場台帳を作成

②自給飼料シミュレーションで、粗飼料の過不足を確認

粗飼料の在庫量をサイロの体積やロールの個数から推測。農業者から給与量を聞き、粗飼料の供給日数を推定し、過不足量を農業者と確認

(2) 自給飼料の不足量の確保に向け、農場にあった技術を導入

①収量向上

１番草の収量向上を目指し、早春施肥時期の効果を実証（Ａ農場）

チモシーの植生維持・増収を目指し、刈取高を改善（Ｋ農場）

経年草地の増収を目指し、リノベーション(ルートマットの切断、エアレーション)施工（Ｇ農場）

計画的な草地更新（道営事業・自力更新）（Ａ,Ｂ,G,K,Ｌ農場）

②サイレージの廃棄量低減

夏季の変敗防止を目指して、スタックの小型化（Ｄ農場）

(3) 取組効果の確認

自給飼料シミュレーションで、過不足を再度確認

だいたい思っていた量が確保できたんだね。
不足分は、早めに手配した方がいいね。

(4) 取組結果を地域に発信

地域懇談会や個別巡回で報告

リーフレットを重点地域、JA・町・NOSAIに配布

JAだよりや関係機関の研修会等で紹介し、釧路東部地区内に発信

2　活動の成果

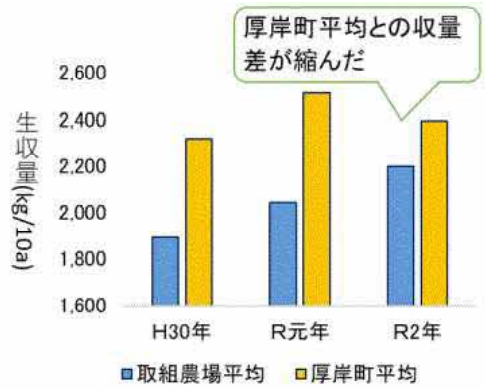

図1　1番草生収量の推移
（取組農場平均　n＝28）
（厚岸町平均　厚岸町作況値）

表1　取り組みと自給飼料シミュレーションの結果

農場	取り組み(平成30～令和２年度)	平成30年	令和元年	令和２年
A	計画的な草地更新、面積の拡大 前年から計画的に外部購入		93% 25日間	99% ３日間
B	計画的な草地更新	118% －	109% －	110%
D	スタックの小型化 余剰発生年は、地域内他農家へ融通	104% －	125% －	98% ９日間
G	低収量草地の自力施工による更新 リノベーションの実施	74% 94日間	92% 24日間	100% －
K	刈取高の適正化、計画的な草地更新 (R元年牛舎新築・増頭)	112% －	82% 64日間	90% 38日間
L	草地→とうもろこしへの一部転換 面積の拡大(R元年牛舎増築・増頭)	88% 44日間	85% 55日間	93% 25日間

上段：粗飼料自給率(必要粗飼料の自給率)
下段：自給できる粗飼料の不足日数

１番草の収量が年々増加

収量向上の取組等により、粗飼料自給率が向上

図2　対象地域1戸平均平成27年対比推移(出荷乳量、経産牛頭数、乳飼比)　(13戸平均)

図3　対象地域1戸平均平成27年対比推移(農業所得、乳価)　(13戸平均)

牧草の収穫量が向上し、乳飼比を高めずに増頭が可能になり、出荷乳量も増加

農業所得は、乳価の上昇以上に向上

3　今後の対応

今後も若松・糸魚沢地域は規模拡大の意向があるため、引き続き粗飼料の安定確保と飼養管理改善による生乳生産性の向上を目指し、取組技術の定着及び更なる課題解決に向け活動する。